

部会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方（令和5年度第1回）

番号	意見	当日の回答	区役所の対応・考え方	担当課
防災・防犯部会				
1	若い男性が急に家に訪ねてきて「家の基盤が緩いので工事をしないと倒壊する恐れがある」といわれ、翌日に工事をする事になったという事案があった。工事前に当該人から相談を受け、工事当日に同席し、問い質したところ、あきらめて立ち去った。 こういった場合、どこへ相談すればよいのか。また有効な対応策があれば教えてほしい。	少しでも怪しいと感じたら警察もしくは区役所へ相談してください。また契約してしまった場合でも、クーリングオフといった解約できる制度もあるので、そういった場合は消費者センターへ相談してください。	同左	協働まちづくり推進課 (安全・安心)
2	身近でラインが乗っ取られてグループカードを購入させようとした事案があった。こういった事案は広がっているのか。	(港警察から回答) サポート詐欺は多発している傾向にあります。	同左	
3	昨年度はコロナ禍でもあり、避難所開設訓練を実施できていない地域もあったが、どここの地域が地域住民を集めて実施したのか。	南市岡と港晴です。それ以外で実施した地域は、役員など少人数で実施しました。	同左	
4	自転車利用時のヘルメット着用について、女性はヘアスタイルの崩れや日焼けを嫌って敬遠される傾向にある。一方で日焼け防止のため縁のついたヘルメットを注文したが入荷待ちの状態であった。自転車を下りた後のヘルメットの保管場所や方法について工夫がされるようになれば、着用される方も増えてくるのではないかと思う。時間はかかると思うが、ヘルメットの重要性は伝わっているのではないかと思う。	(ご意見のみで回答なし)	同左	
5	ヘルメットの購入にあたって、最低限こういったものでないといけないといったことがあれば教えてほしい。	SG基準といった規格があります。また正しくヘルメットを着用することも重要です。	同左	
6	・3月11日に開催された防災マルシェをきっかけに介護事業所と企業がつながり、発災時に企業施設を避難場所として提供していただけることになった。このように横のつながりができてくれば、指定された避難所へ行くより迅速な避難が可能となる。今年度も防災マルシェのような企画をしていただけるとありがたい。 ・福祉施設では地域との交流イベントや施設の一部を開放する活動も行われており、顔の見える関係性ができればお互いの助け合いにもなる。	・防災マルシェについては、12月に開催する予定です。企画については、いただいたご意見を踏まえ検討していきたいと思えます。 ・福祉施設と地域との交流イベントなどについて、情報を提供いただければ、防災面でこういったことができるのかといったことについて検討していきたいと思えます。	同左	
7	個別避難計画の作成について、時間がかかったと聞いているが、具体的にどういったところが大変なのか、こういうことができていけば進めやすいといった点について教えていただきたい。	作成当初は、決められた様式で聞き取り項目が多かったため時間がかかりましたが、現在は、様式を簡略化し必要最小限の聞き取り項目に改め、時間の短縮を図りながら進めているところです。それぞれの地域実情も踏まえ、地域にもご理解、ご協力をいただきながら進めていきたいと思えます。	同左	
8	外国人の方のごみの出し方について、ルールどおりに出されていないため、カラスがちらかすといった事例がある。ごみの出し方について、いろいろな言語で説明されているようなものがあればいいのではと思う。	外国語による、ごみの出し方、分別について説明した資料があります。英語、中国語、韓国語、ベトナム語の資料があり、市民の方にもお配りしています。	同左	
9	大雨で河川氾濫が起きそうな場合、防災スピーカーで知らせる基準について確認しておきたい。	大阪市が警戒レベル3を発令した場合、防災スピーカー、区のホームページやSNSの広報媒体で避難に関する情報をお知らせします。	同左	
10	・台風時に事前に避難所を開設する基準はあるのか。 ・(平成30年の)台風24号の時に中学校を避難所として開放したが、その時はどのような基準であったのか。	・台風時に事前に自主的な避難所を開設する基準はありません。その時々状況判断によりますが、例えば、区役所から地域に依頼して地域集会所を開放していただいたケースはあります。 ・(平成30年の)台風24号が上陸した際は、その時の状況判断で中学校を避難所として開放しました。	同左	